

のピークはCaと近似しており、他にCl, Na, Kが検出された。同部の点分析ではPとCaが非常に高いピークを示し、S, Cl, Naは微量元素として存在した。

考察：骨組織と基質線維部の移行部はalcian blueに青染したので、この部にコンドロイチン硫酸を主体としたグリコサミノグリカンが存在する事が示唆された。骨組織でSの減少傾向が見られたが、これはグリコサミノグリカンが石灰化開始後に減少する為と考えられた。骨組織の50 $\mu$ m平方領域の定性分析でSがCaと同程度のピークを示したのは、基質線維部をも分析されてしまうためであろう。また骨組織のP, Caは成熟骨に比べともに少ない。これは本腫瘍の骨組織がいまだ未熟なことを示唆している。今回検出されたClについては、外来性のものである可能性が強く、この点については今後検討を要するものとする。

## 第18回 松本歯科大学学会（例会）開催の案内

◎第18回松本歯科大学学会（例会）は、昭和59年6月16日（土）午後1時より本学に於て開催致しますので、何卒ご出席賜りますようご案内申し上げます。

松本歯科大学学会 会長 加藤 倉三

### ◎演題募集

講演に出題希望の方は、400字以内（B5原稿用紙使用）の要旨をつけ、5月26日（土）正午までに集会幹事までお届け下さい。（講演時間は1題8分の予定）。なお講演終了後、目的・方法・成績・考察の順に書かれた1,200字以内（B5原稿用紙）の抄録を提出していただきます。

松本歯科大学学会 集会幹事